

ロス対策士の皆さん

「万引など犯罪を犯すのは悪い人間だからだ。だから刑務所で罰を受ければよい。」と短絡的に考えると問題は解決しないと思います。今回は、なぜ万引が起きるのか、特に深刻な社会問題でもあるアメリカの ORC（集団窃盗）に関するレポートのパート 1 です。

最近、選挙違反で実刑判決を受けていた、元法務大臣の河井克行さんが、仮釈放されました。（本も出されています）そこで、犯罪を犯した者の社会復帰についても述べています。万引犯は多くの場合刑務所に入ることはありません。（たとえ有罪になっても執行猶予となることがほとんどです。）しかし、犯行を繰り返す者は収監されることとなります。そして出所しますが、社会復帰は大変難しく、そのための準備も十分とは言えません。そんなことを改めて考えさせてくれる内容だったので、下の URL からぜひ記事をお読みください。

### 首相官邸のレッドカーペットから一転、寒風吹きすさぶ四畳一間の独房へー。

2019年の参院選広島選挙区での買収事件で妻の河井案里氏とともに逮捕され、懲役3年の実刑判決を受けた河井克行氏（61）。法務大臣経験者が受刑者になった史上初めての事件で、昨年11月、仮釈放された。

[史上初、入獄した元法務大臣の河井克行氏が見た刑務所の世界 「次は良い大臣になるよ」その言葉の真意とは？ \(msn.com\)](#)

[河井克行 公式サイト \(kawaikatsuyuki.com\)](#)

### ロス対策士コミュニティのお知らせ

フェイスブックに「ロス対策士コミュニティ」を設けました。フェイスブックのアカウントをお持ちの方は、是非ご参加ください。

<https://www.facebook.com/groups/919653045344673>

万防機構のXをフォローしてください。「万防機構」と検索すると見つかります。

特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構  
LP教育制度作成委員会

---

---

### 「組織的な小売犯罪（ORC）」に対するアメリカの不条理な戦争（その1）

ターゲット（スーパーセンター）と CVS ファーマシー（ドラッグストア）は、彼らを犯罪の手練れと呼ぶ。そして彼らのほとんどがホームレスや薬物などによる精神疾患を抱えている。

[エイミー・マーティン](#)

昨年10月のある土曜日、ルルレモン（ヨガ・ピラティス・アパレル専門店）とヴィクトリアズ・シークレット（インティメート・アパレル専門店）で働く探偵（保安警備員）たちが、[サンフランシスコ](#)のミッション地区にある屋外のフリーマーケットに買物をするふりをして足を踏み入れた。アリバ・フントスと呼ばれるフリーマーケットの一部の売り手は、スペイン語で「一緒に豊かになろう」という意味で、ほとんどが家賃や食料品の高騰に苦しむ移民たちである。白人の買物客が市場を訪れることはめったにないため、売り手の一人は捜査官か覆面警官ではないかと疑った。案の定、サンフランシスコ市警の制服警官がすぐに市場で許可なしでブラジャーを売っていた2人の女性を逮捕した。

ヴェロニカ・ルンブレラス・ビジャヌエバ(40歳)と義母のデイシ・ラミレス(59歳)は、別のフリーマーケットでブラジャーを購入したと警察に話した。しかし、衣服にはまだ値札が付いており、おそらくどこかの時点で盗まれたことを示している。女性たちは現金で79ドルしか持っていなかったが、警察は彼女たちの267枚のブラジャー（ヴィクトリアズ・シークレットの小売価格計16,000ドル）の窃盗で有罪となれば、彼女らは3年以上の懲役刑に処せられる可能性がある。

新型コロナウイルスのパンデミックが発生して以来、全国のドラッグストアチェーン、高級ブランド小売店、百貨店は、多発する「スマッシュ・アンド・グラブ」（ドアやガラスケースを壊し、店員を殴り倒して、商品（金）を手を持ち走り去る）に対応して、警察とより緊密に協力して犯人の多くを逮捕している。3年前にはバイエリアのブラックフライデーの週末には、80人以上がウォルナットクリークのノードストローム（高級百貨店）に群がった。サンフランシスコの[ルイ・ヴィトン](#)から逃げる別のグループと、ハイワードのサムズ・ジュエラーズ（宝飾店）でガラスを割って宝石類を持ち去るグループを防犯カメラは捉えている。全国の主要都市では、人々が厚かましくも商品をバッグに詰め込み、買物客や従業員の前を堂々と歩いていくという報告も普通になった。CVSファーマシーやターゲットなど多くのチェーンストアは、商品をプラスチック製の容器や施錠ケースに陳列するようになり、買物客は商品を買うために従業員を探さねばらず、一方で店舗側は人手不足の中、店舗運営を困難にしている。

小売業者や警察当局は、万引窃盗はハイレベルな犯罪組織によって画策されていると主張し、小売業界は2023年に9つの州でロビー活動を行い、ORCと呼ばれる集団窃盗に対する罰則を強化し、積極的に取り締まることを訴えた。昨年秋、チャック・グラスリー上院議員は、全米小売業協会(National Retail Federation)の指導者たちとともに連邦議会議事堂に立ち、ORCを連邦犯罪とする法案を提出した。一部の議員や業界のロビイストは、小売店における窃盗が人身売買や国内テロと直接関係しているとまで主張している。

カリフォルニア州は2018年にORCを取り締まる法律を成立させ、ORCを「商品を販売、交換、または価値あるものに交換する目的で盗む2人以上の集団」と定義した。盗まれた商品の合計額が950ドルに達すると、窃盗は重罪になり、2度違反すると最大3年の懲役刑に処される可能性がある。今年11月にカリフォルニア州で住民投票にかけられる新たな法案は、3回目の違反に対する950ドルの要件を撤廃したことで金額に関係なく厳罰に処されるようになる。

「スマッシュ・アンド・クラブ」という深刻な問題の波に直面している全国の小売業者のために、テロリストや麻薬カルテルなどに重点的に捜査取り締まりを行っていた警察当局は同様に ORC への対策を強化している。

確かに、数百万ドルの窃盗を組織し、他人を窃盗するために勧誘したとして有罪判決を受けたケースは、ほんの一握りである。しかし、何千人もの逮捕者を出したにもかかわらず、検察は全国的な万引の波がギャングやテロリストが背後あることの証拠を示していない。サンフランシスコのブラジャーの逮捕では、フリーマーケットの女性たちを実際の窃盗と結びつけるものは何もないように見える。昨年 2 月、重罪の告発が提起され、女性の名前が組織犯罪者とのつながりを示唆する地元の報道機関に飛び散った後、地方検事局の検察官は、事件を立証するのに苦労しているように見えた。検察官は、[ヴィクトリアズ・シークレット](#) の捜査官（保安警備）に電子メールを送り、支援を求めた。「ヴィクトリア・シークレット（または他の小売業者）の誰かが、ラミレスとビジャヌエバが 10 月 7 日より前にその商品を売っているのを目撃したのか？」と検察官は尋ねた。

それどころか、産業界や警察当局による取り締まりは、貧困を事実上犯罪化している。起訴の急増に精通している弁護士、被告人、専門家は、小売店での窃盗は、深刻な支援を必要としている人々、特に住居が不足している人や薬物中毒や精神疾患に苦しんでいる人によって圧倒的に行われていると報告している。サンフランシスコ警察が ORC を繰り返し重罪に問われている中には [14 歳の少女](#) と [13 歳の少年](#) を含む未成年者がいる。

ORC の罪を認め服役中のホームレスの女性は、「読み書きができないから商品を盗むしかないんだ」という。ミッション地区の混雑した歩道で、防犯タグが付けられたままのズボンなどを売っている者もいる。そのグループと一緒にいる 2 人のホームレスの男性は、時々ウォルグリーン（ドラッグストア）とターゲットから商品を盗むと言う。

小売業者や政府関係者にとって、小売店を狙った窃盗犯は、パンデミックの発生以来、アメリカの都市やショッピングモールが直面している経営上の苦境の都合の良いスケープゴートにされている可能性がある。小売業者は、広範囲にわたる店舗閉鎖について犯罪組織のせいにして、警察当局もそれについて同意している。昨年 10 月、ギャビン・ニューサム知事は、ORC の対策強化のために、カリフォルニア州全域の都市に 2 億 6700 万ドル（380 億円）の補助金を支出し、取り締まりは劇的にエスカレートしている。4 月、ナバ郡の 25 歳の男性と 2 人の未成年者が、25,000 ドル相当のアスレジャー（ヨガやティラピスのレギンスのようなトレーニングウェア）を持ってルレモンから出てきたことが発見され、3 つの警察署の警官とカリフォルニア・ハイウェイ・パトロールのヘリコプターが、彼らを追跡した。

この補助金は、サックス、ルイ・ヴィトン、シャネルなどの高級ブランド小売店が軒を連ねるロデオドライブのようなユニオンスクエアのパトロールのために多く支出されており、犯罪はその組織的だという理由で、検察庁で扱われることになる。（微罪ではないという意）しかし、現場の人々は盗難について異なる認識をしている。サンフランシスコのヴィクトリアズ・シークレットの警備員は、万引窃盗を試みる者の大半がティーンエイジャーや薬物中毒の中年の男性だと私に話してくれた。「彼らの犯行は巧妙でもなんでもなく稚拙なもので

だ」と警備員は言う。

多くのチェーン店では、商品をプラスチック製のシールドで固定しているため、買物客はカミソリやタイド（衣料洗剤）のような今までは普通に棚に陳列されている商品を購入するためにいちいち従業員を呼ばなくてはならない。

全米小売業協会（NRF）は、多くのホームレスが犯罪組織に窃盗のために利用されていると主張し、ホームレスを助け出そうとしている自らを演じている。「目標は、彼らが健康とサービスに必要な支援を提供することです」と、NRFのアセットプロテクション（AP）および小売事業担当副社長であるデビッド・ジョンストンは言う。しかし、一部の小売業者は、他の理由でホームレスをターゲットにしていることを明らかにしている。昨年、クローガーのAP担当役員は、ホームレスの人々「薬物中毒者」は最も「極端」で暴力的な万引犯だと述べている。「アメリカのすべての小売業者が同様の問題に直面していると思います」と彼は述べている。さらに「もちろん彼らに私たちの店を支配するのを許すつもりはありません。」と付け加えた。

ホームレスが万引を犯した他の者よりも暴力的であることを示す証拠はない。私が話したホームレスの人々は、特に暴力を避けるために、従業員が万引犯に立ち向かうことをしばしば禁止する企業チェーンから盗むと言った。実際には、小売店での万引窃盗の疑いのあるホームレスの人々は、逆に暴力の被害者になる可能性がある。サンフランシスコとロサンゼルス  
の別々のケースでは、警備員が[ウォルグリーンの店舗で万引](#)の疑いのある丸腰のホームレスを射殺した。その結果、ロサンゼルスの警備員は殺人罪で起訴された。しかし、サンフランシスコでは、地方検事は、彼が命の危険を感じていたと述べ、警備員を起訴することを拒否した。